

～～第8601回～～

光明山・光明山遺跡

～H31. 1. 13～

参加者 7 名が遠州鉄道西鹿島駅前に集合した。そこから春野町行のバスに乗り込んだ。廃線が検討される路線だけあって乗車は私達以外一人だけだった。麓橋登山口の近くで下車した。準備体操の後、林道を登って行った。この一帯は、天龍高校の林業の実習林である。目的の林道から外れる細い登山道は崩落など荒れていた為、さらに林道を進み、林道が途切れる場所から、麓橋古道を進むことにした。古道となっているだけあって、踏み馴らされていた。また、町石 35 丁の刻んだ石碑と鳥居の敷石が残る場所があり、いにしえの人々が歩いた面影を感じられる道であった。しばらく行くと、一旦山東からの車道と合流し、また古道に戻り、杉林の中を登って行った。突然開けたと思ったら、そこが光明山遺跡であった。光明山遺跡は石垣に囲まれた明るく広々としていてお城の跡のようであった。そこからははるか浜松一帯が見渡せた。ライオンズクラブが設置した望遠鏡もあり、遠くの景色を楽しむことができた。光明山遺跡は、717 年に高僧行基が開創した「明鏡山光明寺」の跡であり、昭和 6 年に火災で焼失し、麓の山東に移ったとのことであった。そこで昼食をとり、遺跡を回り込み光明山頂上に向けて登って行った。光明山頂上は展望もなく二等三角点と標識だけがあった。それから奥の院に行ったが、岩の屏風に囲まれた神秘的な雰囲気があるだけで標識は無かった。帰りは、光明山遺跡まで戻り、横川古道を下って行った。低山であるため、杉檜の林と雑木林が広がった何の変哲もない里山といった雰囲気である。途中、炭焼跡や町石がいくつも有り、古くからの生活が偲ばれた。ようやく人家のあるところまで出て、道の駅「いっぷく処横川」でおでんとアイスクリームをほおばり、帰りのバスを待った。予定の時刻に西鹿島行のバスに乗り帰途に着いた。

参加者：7名

天候：晴れ

地図：二俣・秋葉山

コースタイム：西鹿島駅 811＝スミレックス前 840…麓橋登山口 845…麓橋古道交差点 (209m) 930…町石 35 丁 1050…光明山遺跡 1120-1230…光明山頂上 1250…奥の院 1300…光明山遺跡 1320…道の駅「いっぷく処横川」 1455-1554＝西鹿島駅 1630

記録：浜松支部 K。I